



おかげさまで120周年



FUKUDA REPORT

第96期 第2四半期報告書

2022年1月1日～2022年6月30日



株式会社 **福田組**

証券コード：1899

WEBサイトのご案内

様々なコンテンツを掲載している
当社WEBサイトをご利用ください



福田組

検索

スマートフォンからも
ご確認いただけます

地域に根差し、地域を超えて マルチ・ステークホルダーとの 強い絆を築いてまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて当社は2022年6月30日をもって、第96期第2四半期(2022年1月1日～2022年6月30日)を終了しましたので、ここに当第2四半期の概況をご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は後記のとおりでありますが、新型コロナウイルス、急激な円安、混沌とした世界情勢、資機材高騰で、我が国を取りまく経済情勢は一層の不確実性を増しており、当社としても大きなリスクを孕んでおります。

しかしながら、先の見えない時代だからこそ、柔軟に思考を変化させ、安定かつ強固な経営基盤の構築を志向し、今後とも株主の皆様のご期待に沿えるようグループ一丸となって邁進する所存でございます。

また、当社は今年創立120周年という節目を迎えることができました。これもひとえに、株主の皆様を含めステークホルダーの



代表取締役会長
福田 勝之



代表取締役社長
荒明 正紀

皆様方のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。今後も「地域に根差し、地域を超えてマルチ・ステークホルダーとの強い絆を築く」のスローガンのもと、更なる持続的な成長を遂げてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2022年9月

当第2四半期累計期間の連結事業概況

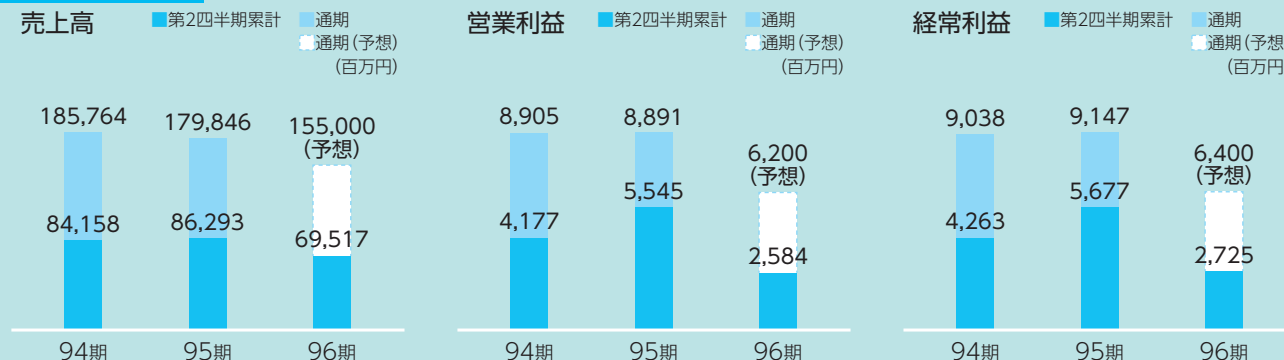
当第2四半期連結累計期間の連結業績は次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、売上高は、コロナ禍による工事の大幅な遅延等はなく、進捗が図られたものの、コロナ禍による発注時期の遅れなどが影響し

て、前期受注高が減少したことに伴い、前期繰越手持高が前年を下回ったため、前年同四半期と比べて19.4%減の695億円余となりました。

利益面におきましては、売上高の減少に加え、不採算工事の発生による粗利益率の低下により、売上総利益は前年同四半期と比

財務ハイライト



べて28.3%減の72億円余となり、販売費及び一般管理費の増加もあって、営業利益は前年同四半期と比べて53.4%減の25億円余となりました。

また営業外損益においては、大きな変動が無かったことにより、経常利益は前年同四半期と比べて52.0%減の27億円余となりましたが、前期計上していた関係会社株式評価損が無くなった点や、税金等調整前四半期純利益の低下に伴い法人税等の税金費用が減少したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期と比べて49.4%減の19億円余となりました。

受注面におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が継続し、原材料価格高騰もあって、引き続き民間分野における発注の遅れが見られますが、前期と比べて回復傾向にあり、当社個別の受注高は第2四半期末時点で520億円余、前年同期比7.4%増となりました。

通期の見通し

わが国の経済は、新型コロナウイルス対策による活動制限が緩和され、経済活動が持ち直しつつあったところに、世界情勢の悪化による「円安」や「資源高による物価上昇」に直面している状況にあります。一方、円安により訪日旅行への潜在的需要が高まって、インバウンド需要の回復による景気の押し上げが見込まれており、また、資源高による物価上昇については、コロナ禍における自粛で積みあがった過剰貯蓄で一時的な支出増に対応可能と考えており、個人消費の回復基調は大きく崩れないと見込まれております。企業側においては、経営効率の改善などにより、ある程度物価上昇を吸収、高水準の企業収益を背景に設備投資の回復基調も崩れないと見込まれており、個人消費や設備投資にけん引される形で景気回復が持続するものと思われます。しかし今後のコロナ感染状況や資源価格の動向など、日本経済を取り巻く環境は先行き不透明感があるため、下振れリスクも大いに残されております。

このような経済状況を背景に、建設業におきましては、防災対策や将来に向けたインフラ老朽化対策を中心とした公共投資は若干ではありますが減少傾向となっております。民間投資においては、コロナ感染症対策と経済活動の両立により国内景気が回復基調にある中で、設備投資計画の回復の動きが見られるものの、資材価格高騰に伴う建設コストの増加を受ける形となり、需要が限定的となる可能性もあり、更なる受注競争の激化が予想されます。

また、慢性的な労働者不足による労務単価の上昇も含めて、建設コストが継続的に上昇することも予想されるため、生産性向上を喫緊の課題として諸施策に取り組んでおります。

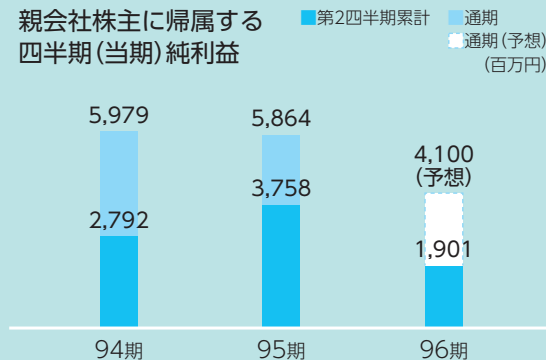
以上のような状況の中で、当社グループにおける収益状況は、第2四半期時点において、売上高・利益共に前年同四半期と比べて下回っており、当初計画に対する進捗率の面から見ると若干の伸び悩みが生じております。

今後、第3四半期以降、引き続き受注環境の回復が続けば、手続工事量の増加により、売上・利益の伸長は共に順調に推移し、当初計画を達成するものと予想される反面、世界的なサプライチェーンの混乱や資源価格の高騰が続いており、建設資材等の物価上昇に伴う採算の悪化も懸念されることから、通期の業績見通しは、楽観視できないものと思われれます。

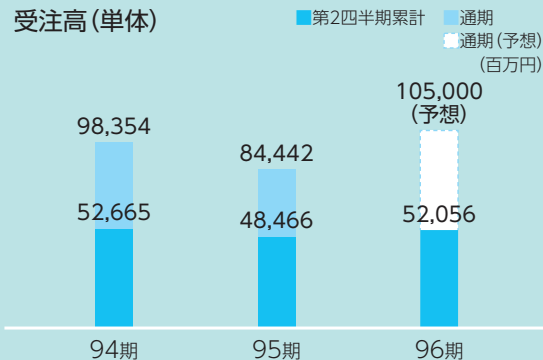
従いまして、通期（2022年12月）の連結業績は、当初計画のとおり、受注高1,700億円、売上高1,550億円、営業利益62億円、経常利益64億円、親会社株主に帰属する当期純利益41億円を見込んでおります。

今後の受注状況等により業績の変動が見込まれることとなった場合、遅滞なく業績予想の修正を行う予定としておりますが、現時点におきましては通期業績見通しの変更は必要ないものと判断しております。

親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益



受注高(単体)





MMS+GNSS/MC切削機による「建設DX」への取り組み

GNSS（衛星測位システム）と厚み制御を組み合わせたマシンコントロールとマシンガイダンス技術を使うことにより、MMS（モービルマッピングシステム）の利点を最大限活用した「建設DX」型の舗装補修工事の普及に取り組んでいます。この技術は、GNSSでは精度の担保ができないZ座標を使用せず、事前に計測して計画したXY座標地点の厚みを自動で切削していくもので、GNSSによる測位誤差を許容することで、煩雑な事前測量・現地マーキング・出来形計測をICT化して現場作業を大幅に減らすことが可能となります。

MMS(モービルマッピングシステム)を使用した事前測量

ポイント① 車線規制・交通整理人なしで事前測量が可能となり安全性が高まります。

ポイント② 現場での計測作業がなくなるので、事務所で快適に作業ができて、生産性が向上します。

MMS(モービルマッピングシステム)の概要



- ◆高感度カメラ
 - ・台数 4
 - ・解像度 5Megaピクセル(標準)
- (※車両装備品)
- ◆路面専用カメラ 台数2
 - ・解像度12Megaピクセル
 - ・平坦性変位計
- ◆全方位カメラ LadyBug5脱着可能
- ◆レーザースキャナ
 - ・台数1(高精度レーザー)
 - ・角度設定 60°/90°可変
 - ・最大取得可能数 100万点/秒
 - ・最大到達距離 119m
 - ・視野360°
- ◆データ容量
 - ・データログ 2TB(標準)

- ◆測位衛星
 - ・GPS、GLONASS、Galileo(※1)
 - ◆絶対精度 2.0cm(rms) TYP(※2)
 - ◆消費電力
 - ・550W以下
 - ◆車両搭載時間
 - ・2人 30分以下
 - ◆ケーブル数
 - ・4(電源×2、LAN×1、オドメータ×1)
 - ◆ユニット重量
 - ・55kg以下

(※1)日本国内の公共電子基準点は未対応
(※2)電子基準点までの距離が約3km以内のオープンスカイ環境で、GCP補正を行わない場合のレーザ点群水平精度。
(保証値ではありません。)

※三菱電機製MMS-Gカタログより一部抜粋



GNSSマシンコントロール切削(国交省見学会の様子)

3D MC/MG システム[MMNav system]を使用したマシンコントロール/ガイダンスによる切削工事

ポイント① 事前のマーキング作業を必要としないので車線規制が減らせて安全性が高まります。

ポイント② 施行履歴を使用した出来形ヒートマップの作成により、現場計測を省略して生産性が向上します。



切削機
GNSS設置



切削機
厚みセンサー



切削機
ホイールエンコーダー



切削機
スライドセンサー



切削機
確認用モニター(操作可能)



運転席
制御ボックス



人と環境に寄り添う ドライテックコンクリート

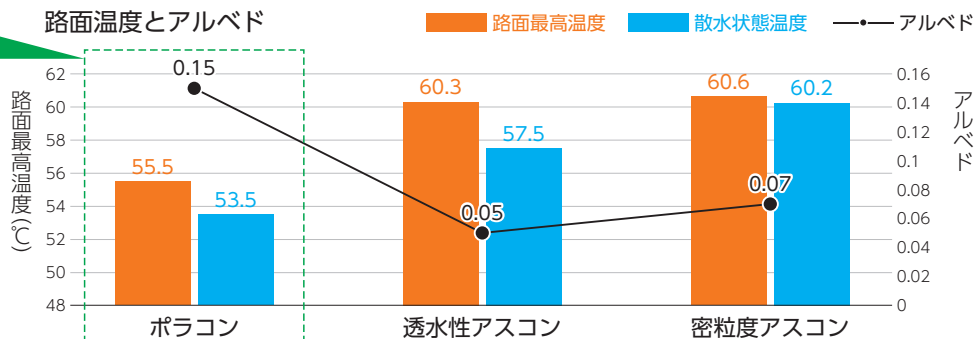
当社では、透水性に優れた高性能土間コンクリート“ドライテックコンクリート（ポーラスコンクリート）”の施工を行っています。水はけがよく、雑草や苔が生えにくいので玄関前のアプローチや駐車場、お庭のワンポイントとして御提案したい商品です。これからも当社は新しい技術を取り入れ、暮らしに寄り添った街創りに貢献できる施工を行ってまいります。

ポイント① 熱を遮断する

ドライテックコンクリートは熱を遮断する高い性質を持っています。アルベド（太陽光などの反射率）が大きいため、熱を溜め易い従来のものよりも約10℃近く熱を抑えることが可能となっています。また、打ち水をすることによって路面温度上昇抑止効果は向上されます。夏場に裸足で触れた際に火傷をするリスクの低下や、地球温暖化・ヒートアイランド現象を抑える効果も期待されます。



従来のものと比べると
自然状態だと約5℃差、
打ち水をすると約7℃差。



※参考文献：土木学会第60回年次学術講演会【コンクリート系舗装によるヒートアイランド現象抑制効果】、平成17年9月

ポイント② 雨水を溜めない

この製品はスポンジのように内部に小さな穴が存在しています。この構造によって水を溜めることなく地中に浸水させる透水性に優れています。雨水を舗装体内の空隙に一時的に貯留して、少しずつ地中に浸透・蒸発散させます。大量の雨が降った際に溜まった水が原因で起こるスリップや浸水を防ぎます。平坦性に優れ、且つ表面が滑りにくい構造となっています。そのため雨天時に車椅子の方が移動する際の安全確保、ご高齢の方や子どもの転倒リスクも減らすことが可能です。



お問い合わせ先 株式会社新潟造園土木 TEL：025-275-4122

連結財務諸表

●連結貸借対照表 (単位：百万円/百万円未満切捨)

科目	当第2四半期連結会計期間末 (2022.6.30現在)	前連結会計年度末 (2021.12.31現在)
資産の部		
流動資産	93,829	95,462
固定資産	35,553	35,292
資産合計	129,383	130,755
負債の部		
流動負債	44,739	47,024
固定負債	7,538	7,318
負債合計	52,277	54,342
純資産の部		
株主資本	75,559	75,131
その他の包括利益累計額	860	636
その他有価証券評価差額金	694	677
土地再評価差額金	122	△112
退職給付に係る調整累計額	43	72
非支配株主持分	685	643
純資産合計	77,105	76,412
負債・純資産合計	129,383	130,755

▶ワンポイント

【連結貸借対照表】

資産については、売上債権の回収が順調に進んだことや回収資金を月次の下請負代金等の支払に備えたことから現金預金が増加したものの、売上債権が順調に回収できたことによる受取手形・完成工事未収入金等も減少した点や、繰越工事減少により未成工事支出金が増加した点が影響し、前連結会計年度末に比べ総資産は13億円余減少し、1,293億円余となりました。

負債については、手持工事量の減少に伴い、支払手形・工事未払金等が減少したことが大きく影響して、前連結会計年度末に比べ20億円余減少の522億円余となりました。

純資産については、前期分の配当支払が生じながらも、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加したため、前連結会計年度末に比べて6億円余増加し、771億円余となりました。

●連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円/百万円未満切捨)

科目	当第2四半期連結累計期間 (2022.1.1～6.30)	前第2四半期連結累計期間 (2021.1.1～6.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,984	25,663
投資活動によるキャッシュ・フロー	△93	△828
財務活動によるキャッシュ・フロー	△982	△5,495
現金及び現金同等物の増減額	23,908	19,339
現金及び現金同等物の期首残高	23,285	23,116
現金及び現金同等物の四半期末残高	47,194	42,456

●連結損益計算書 (単位：百万円/百万円未満切捨)

科目	当第2四半期連結累計期間 (2022.1.1～6.30)	前第2四半期連結累計期間 (2021.1.1～6.30)
売上高	69,517	86,293
売上原価	62,257	76,173
売上総利益	7,259	10,119
販売費及び一般管理費	4,675	4,574
営業利益	2,584	5,545
営業外収益	193	236
営業外費用	52	104
経常利益	2,725	5,677
特別利益	40	46
特別損失	19	99
税金等調整前四半期純利益	2,745	5,624
法人税、住民税及び事業税	905	1,904
法人税等調整額	△124	△88
四半期純利益	1,964	3,808
非支配株主に帰属する四半期純利益	62	50
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,901	3,758

【連結キャッシュ・フロー計算書】

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少が生じたものの、売上債権の減少による収入面が大きかったことにより、249億円余の収入超過となりました。(前年同四半期は、256億円余の収入超過)

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得が少なかったことや長期貸付金の回収が多かったことにより、9千万円余の支出超過となりました。(前年同四半期は、8億円余の支出超過)

財務活動によるキャッシュ・フローは、増配による配当金の支払額が増えたものの、前期大きかった借入金の返済額が減少したことにより、9億円余の支出超過となりました。(前年同四半期は、54億円余の支出超過)

■ 会社の概況 (2022年6月30日現在)

創業 1902年1月

設立 1927年12月

資本金 5,158,408,496円

従業員数 906名

連結子会社 16社 (福田道路(株)他)

主要な事業所

- 本社
新潟市中央区一番堀通町3番地10
電話 025-266-9111 (大代表)
- 本店・支店
新潟本店(新潟市中央区)
東京本店(東京都千代田区)
東北支店(仙台市青葉区)
名古屋支店(名古屋市中区)
大阪支店(大阪市北区)
九州支店(福岡市博多区)
中越支店(新潟県長岡市)
北海道支店(札幌市中央区)
- 営業所
盛岡、千葉、横浜、村上、上越、広島ほか
5営業所

主要な子会社

福田道路(株)

(株)興和

フクダハウジング(株)

(株)レックス

福田アセット&サービス(株)

(株)新潟造園土木

福田リニューアル(株)

北日本建材リース(株)

(株)リアス

■ 役員 (2022年6月30日現在)

代表取締役会長	福田 勝之	上席執行役員	湯上 聡
執行役員会長		執行役員	八鍬 耕一
代表取締役社長	荒明 正紀	執行役員	小川 暁彦
執行役員社長		執行役員	清水 浩
取締役	齋藤 秀明	執行役員	田宮 強志
常務執行役員		執行役員	今野 和則
取締役	山賀 豊	執行役員	砂田 修一
常務執行役員		執行役員	小見 年雄
取締役	大塚 進一	執行役員	高桑 正一
常務執行役員		常勤監査役	山本 武志
取締役	岩崎 勝彦	常勤監査役	砂田 徹也
執行役員		社外監査役	宮島 道明
社外取締役	矢澤 健一		
社外取締役	中田 義直		
執行役員副社長	藤山 秀章		
上席執行役員	尾崎 清美		
上席執行役員	追木 博幸		
上席執行役員	山本 幹夫		

注1. 矢澤健一、中田義直の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
注2. 砂田徹也、宮島道明の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

■ 株式の状況 (2022年6月30日現在)

発行可能株式総数 20,000,000株

発行済株式の総数(自己株式を除く) 8,615,257株

株主数 5,332名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	905	10.5
(公財)福田育英会	688	8.0
福田 直美	431	5.0
(株)第四北越銀行	419	4.9
小沢 和子	321	3.7
福田石材(株)	286	3.3

(注) 持株比率は自己株式(372,854株)を控除して計算しております。なお、当該自己株式数は、「株式給付信託(J-ESOP)」及び「役員株式給付信託(BBT)」制度の信託財産として、(株)日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式(89,800株)は含まれておりません。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 3月

基準日 定時株主総会 12月31日
期末配当金 12月31日
中間配当金 6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

【連絡先】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
TEL 0120-232-711（通話料無料）

【送付先】

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

単元株式数 100株

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場

公告の方法 電子公告の方法により行います。

ただし、やむを得ない事由により電子公告による
ことができない場合は、日本経済新聞に掲載いた
します。

公告掲載URL <https://www.fkd.co.jp/>

【ご注意】

●株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、口
座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管
理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本店で
お支払いいたします。

●特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三
菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座
の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。

なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

株主優待制度

当社では、日頃の株主様の御支援に感謝申し上げるとともに、
弊社株式を末永く保有していただくことを目的に、株主
優待制度を導入しております。

保有株式数	優待贈呈内容	贈呈実施基準
200株以上	金券 2,000円分	毎年12月31日現在の株主 名簿に記載または記録さ れた内容に応じ贈呈
200株以上	金券 5,000円分	1年以上継続保有（株主名 簿に3回以上記載または記 録）された内容に応じ贈呈

贈呈時期 毎年3月下旬発送予定

●株式手続に関するFAQ

1 特別口座では株式の売買を行うことができないので、
特別口座にある株式を証券会社の口座に振替えたいのですが…

あらかじめ、証券会社に口座を開設した後で、当社の特別口座の口座
管理機関である三菱UFJ信託銀行までお申し出ください。単元未満株
式についても振替が可能です。振替にかかる手数料はございません。

2 単元未満株式を処分したいのですが…

当社では、単元未満株式の買取・買増請求制度を採用しておりますの
で、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行までお申し出
ください。

※すでに、単元未満株式を特別口座から証券会社の口座に振替えられた場合は、振替先の
証券会社にお申し出ください。

3 各種手続の申し出先を知りたいのですが…

①証券会社の口座にある株式
▶お取引先の証券会社

②特別口座にある株式
▶三菱UFJ信託銀行
（※右記までお問い合わせください。）」

〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711
<https://www.tr.mufig.jp/daikou/>



FUKUDA

本社／新潟市中央区一番堀通町3番地10
電話 025-266-9111（大代表）